深くやさしくひと目で

新紙面、来月14日から

日本経済新聞の朝刊が新しくなります。昨秋に「日曜に考える」など週末紙面を充実したのに続き、今回は1面や2～3面を一新。大学面など新紙面も続々登場します。「先取り」「深掘り」をキーワードに、わかりやすく、読み応えのある記事を毎日お届けします。スタートは5月14日（月）。日経電子版との連動性も一段と高まる新しい「日経朝刊」にご期待ください。（1面参照）

日本経済が停滞するなかで、人材育成や研究開発など様々な形で大学が問われています。グローバル化を進めるため、東京大学が秋入学移行構想を打ち出すなど大学側も懸命です。新設の大学面は幅広い読者を対象に、より具体的で役立つ記事、問題解決につながる記事をお届けします。

大学面は原則として月曜日と木曜日の週2回掲載します。これまでの教育面（月曜日）とキャリアアップ面（火曜日）と合わせ計4ページを「学ぶ 磨く 育てる」を共通テーマに一体編集します。

月曜日の大学面は、大学生や就活生、その親の世代の方にぜひ読んでいただきたい紙面です。大学や学生の今をわかりやすく読み解く記事や、就職活動の最新事情などを多角的に取り上げます。

就活・採用、幅広く
大学面、月・木曜日に掲載

池上彰氏コラムも

テレビなどで活躍中のジャーナリスト、池上彰さんが東京工業大学で行う講義のエッセンスを掲載するコラムも始めます。テーマは「教養」。解説のわかりやすさで定評のある池上さんが現代の諸問題を解きほぐします。大学生だけでなく社会人の方も必読です。

木曜日に掲載するもう一つの大学面は、大学関係者や企業の人事担当者を中心に幅広い読者を想定しています。国際化、少子化に直面する大学がどう生き残ろうとしているかなど、大学にまつわるニュースを日経の視点で取り上げます。

先端研究の拠点や組織を記者が徹底取材するルポや、大学が企業と組んで生んだ商品を紹介したり、全国の大学に関するニュースをまとめ読みできたりするコーナーも登場します。

教育、キャリアアップ面もリニューアル。教育面は月曜の大学面と見開きになります。大学の学長や第一線の教育研究者らによる質の高い寄稿記事を中心に教育問題を深掘りします。

キャリアアップ面は火曜日に掲載。一歩先をめざすビジネスパーソンの仕事術に加え、女性のキャリア形成、生涯学習など社会人により役立つ内容になります。経営トップがミドル時代を振り返る「私の課長時代」も引き続き掲載します。

内外の動きを一覧 1面

新しい日経朝刊は1面から変わります。紙面のデザインを一新。写真やグラフ、イラストもより大きく、見やすくなります。こだわるのは紙面の美しさ。

4月18日付朝刊を新紙面のイメージで再構成しました

紙の新聞ならではの情報の一覧性も一段と高めます。

毎朝、朝刊を手にした時に、日本や世界の動きをひと目でつかむのに役立つのが「NEWS&VIEWS」です。今のレイアウトでは1面の右下にありますが、これを大幅に拡充し、1面の最上部と左側に掲載します。

国内外で起きた重要なニュース、日経が深掘りした特集記事、株式や円相場などマーケットの動き……。朝、忙しくて時間のない方でも、「NEWS&VIEWS」に目を通せば、その日のニュースや話題をつかめるようになります。

特に1面の上に、写真やイラストつきで掲載する3つの記事は、その日の日経朝刊のお薦めの3本です。日経独自の「先取り」「深掘り」記事へのナビゲーションの役割を果たします。市場の話題やシグナルを伝える「MARKET+（マーケットプラス）」も登場します。

1面コラム「春秋」は、レイアウトを変えて読みやすい形にします。

役立つ情報コーナー

マーケット面は投資のグローバル化や多様化を意識して刷新します。相場のデータを大幅に整理・再編して読みやすくするほか、東京市場と連動性を高めているアジア株などの記事を増やします。これからの投資に役立つ紙面になります。

見開き2ページの右側、マーケット総合1面は前日の市場の動きがひと目でわかる紙面です。日経平均株価やアジア株の指数など主な相場の指数は「マーケットシグナル」として大型の表で整理します。株式、外国為替、長期金利などの場況は「市場往来」としてまとめます。アジア株の日々の動きもお伝えするほか、株式市場の話題を切り取る「まちかど」も引き続き随時掲載します。

左側のマーケット総合2面はこれからの投資に役立つ「市場展望」が柱。株式、外国為替に加え、金やFX取引関連の記事を増やします。主要国の金融政策運営への関心が高まっているのに対応し、日銀など中央銀行の動静を担当記者が伝える記事も随時掲載。経済・市場論壇コラム「大機小機」はデザインを一新して引き続き掲載します。

原油や穀物、素材の相場動向などを伝える商品面は、マーケット総合2面のすぐ後に移設します。景気先読みのアンテナとしての位置づけを強め、マーケット面と一体で読んでいただくことで、マネーの流れや景気動向を先取りできる紙面になります。

木曜夕刊の政界面は装いを新たに日曜朝刊に登場します。政治をひと味違った切り口からビジュアルにわかりやすく解説します。政治への関心が高い方はもちろん、今の政治に「何も決められない」「政争ばかり」と不満をお持ちの方にも興味を持っていただける読み物です。幅広いテーマで政策と人間模様が織りなす政界の今を伝えます。

マーケット面、グローバルに 朝刊に政界面

総合面、見開きで分かりやすく

ニュースを深く、やさしく――。新しい日経朝刊のコンセプトを具体的に表現するのが、2面と3面の見開きで展開する総合面です。景気や政策、企業経営や世界情勢、暮らしに役立つ情報をやさしく、わかりやすく深掘りします。次に、何がどうなるのかを伝えるニュースの先取りにも力を入れます。

総合面の柱のひとつは、旬のニュースの背景や「なぜ？」「どうなる？」をわかりやすく解き明かす「真相深層」です。それぞれの分野に詳しい編集委員や担当記者がニュースを基礎から読み解くほか、ニュースの理解を助ける大型のインタビューも随時掲載します。

もうひとつの柱は、ニュースの裏側に迫るルポルタージュ「迫真」です。記者や編集委員がニュースの現場を歩き、当事者や関係者らの肉声を拾って、ニュースの舞台裏を追います。企業のM&A（合併・買収）や破綻といった経済ニュースだけでなく、債務危機に揺れる欧州の現地ルポなど海外ニュースも取り上げます。

わかりやすさを徹底するために、時事用語を解説する「きょうのことば」を拡充します。サイズを大きくするだけでなく、見やすいグラフや表もつけて、ニュースの理解を助けます。

総合面の主な刷新ポイント

- 見開き2ページで展開
- 「真相深層」 ニュースを深掘り。インタビューも
- ルポ「迫真」 現場の肉声、海外からも
- 「きょうのことば」拡充 見やすいグラフや表でわかりやすく
- 「電子版この1本」人気記事、朝刊に
- 日曜、月曜も「総合政治」「総合経済」で機動的に紙面展開

真相深層 背景、基礎から詳しく

迫真 HAKUSHIN ニュースの裏側をルポ

「電子版この1本」でオリジナル記事

電子版との連動性が高まるのも総合面の特徴です。電子版のオリジナル記事で、最も読まれた人気記事を朝刊でも紹介する「電子版この1本」がスタートします。

週末のニュースをお届けする日曜、月曜の朝刊も、2面と3面は「総合政治」「総合経済」とし、総合面として編集します。国際会議やマーケットの動きに応じて、機動的に紙面を展開します。

日曜の2面には、政治コラム「風見鶏」をレイアウトを刷新して掲載。月曜の2面には、話題の人に迫る「旬の人 時の人」も随時掲載する予定です。

発見・驚き、いち早く
来月1日先行スタート

5月1日に先行スタートする新紙面「WAVE.1（ウェイブワン）」は、身近なテーマを独自の視点で掘り下げ、知的関心の高い読者の方々に「発見」や「驚き」をお届けする大型特集です。タイトルには、世の中の大きなうねりの一歩先の〝波頭〟をとらえ、いち早く発信する、という意味を込めました。

WAVE.1

特集テーマは健康、ファッション、科学、食と多彩。社会現象になっている事柄などを取り上げ、背景に潜む深層に切り込みます。

印象に残る大判の写真を多用し、ビジュアルで洗練された紙面を目指します。紙面デザインを担当するのはグラフィックデザイナーの戸田ツトム氏。第2号は7月中旬を予定。約2カ月ごとに掲載します。